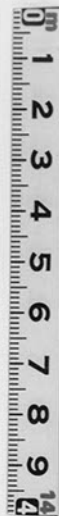


緑の郷土

第 4 号



緑の郷土社



卷頭言

第五回會に「國土保全並に舉國造林に關する決議案」が上程可決された今日、緑化運動とは何であるかを知らない人は恐らくないであらう。然るに國土緑化の大切な仕事は、何處にあつたらうか、自ら緑化運動を名乗る者々が、難かしい専門語や數字をひねくり廻して、他人を説き伏せる様な思ひ上つた事はなかつたらうか、廣く一般に平かな言葉と内容とをもつて普及し、聞く人をして考へさせる運動であつたと實に切れない處に、吾々の適ちがあつた様に思ふ。こゝに於てやさしい國土あや子さんの作詩を掲げ、大衆と共に歌ひ、そして考へて見たいと思ふ所以である。

木を植えよう

一、さつきのあした
若木をどつさり
百年たつたら
こゝの緑色の
葉もれびちら／＼
こかげの道に
孫やその子が
さつきのあした
若木をどつさり
百年たつたら
大木の枝で
かわい／＼と
とうさんかあさん
みんなでたのしく
うたうだろ

緑の郷土社

目次

巻頭言	白木英尾	二
緑の羽根	白木英尾	三
緑の羽根を寄るもどき	柳井元一	六
緑の羽根を寄るもどき	大河内一郎	七
緑の羽根を寄るもどき	伊藤忠男	八
緑の羽根を寄るもどき	八木東作	十
緑の羽根を寄るもどき	新田五郎	十一
緑の羽根を寄るもどき	松崎愛子	十二
緑の羽根を寄るもどき	猪俣金五郎	十四
緑の羽根を寄るもどき	山名哲村	十五
緑の羽根を寄るもどき	荒井啓助	十六
緑の羽根を寄るもどき	遠藤修	十七
緑の羽根を寄るもどき	佐々木貞子	十八
緑の羽根を寄るもどき	荒川ハル	十九
緑の羽根を寄るもどき	吉田満	二十
緑の羽根を寄るもどき	廣澤榮太郎	二十



緑の羽根

白木英尾

小女らが緑の羽根をかざさどぞ

巷に清きこえは透れり

夕暮往來しげきかへるさに

緑の羽根を吾ももどき



かなる給持と言はむ人々の

胸にかざせる羽根美しく

疲れゆく心やすむる折々に

緑の羽根を手ぐさ遊び

抽斗に緑の羽根はゆく春の

なごりの如く仕舞ひて



木を植えよう

緑の郷土社

白木葵尾

巷に清きこゑは透れり

夕卷往來しげきかへるさに

緑の羽根を吾ももらふぬ

かすかなる鈴持と言はむ人々の

胸にかざせる羽根美しく

疲れゆく心やすむる折々に

緑の羽根を手ぐさに遊ぶ

抽斗に緑の羽根はゆく春の

なごりの如く仕舞ひてあるぬ

目次

飯の料理
 祭の神根
 祭の神探訪記
 鉄化祭禮に寄せて
 これらの鐵化祭禮
 平十三日會の想ひ出
 觀光と樹木について
 讀んで見たい木
 四回號
 林長と長さんを縣廳に訪ねて
 白鳥を採訪記
 うたひについて
 傳ひの語
 今使の鐵索國旗について
 草花栽培法について
 承継の料理
 花と生活
 増刊の言葉
 ツル草摘
 白木英尼
 御井元一
 大河内一男
 大森一郎
 伊藤忠男
 木下東作
 新田五郎十一
 松浦慶子十一
 十二
 落供金五郎十四
 山名宮村十五
 荒井啓助十六
 藤原修十八
 佐々木貞子十八
 佐川ハル十九
 吉田滿二十
 廣澤榮太郎二十



百七十一万四千で、六百六十三坪の新校舎を新築しました。縣から百五十六萬二千圓の補助があるが、これにあれば四教室を増築することになり、生徒が六百五十人、新校舎に移つてはげんで居ります。小學校も四十一人の教員と千六百二十六人の児童が在籍して居りますので、豫算

千六百十四萬三千七百四十圓の中、合に増改築する豫定です。又舊校舎の七教室を改造して公民館を設置することに、百五十萬の豫算で、縣原部落に水道を設けたり、七十萬圓で自動車ポンプを購入する事も決定して居ります。又湯本町の傾城から小野田へ縣道を開鑿する運びになつて居りますので、豫算

戸部 鑛業
小野田 鑛

常磐炭鑛磐崎鑛

千六百十四萬三千七百四十圓の中、合に増改築する豫定です。又舊校舎の七教室を改造して公民館を設置することに、百五十萬の豫算で、縣原部落に水道を設けたり、七十萬圓で自動車ポンプを購入する事も決定して居ります。又湯本町の傾城から小野田へ縣道を開鑿する運びになつて居りますので、豫算

千六百十四萬三千七百四十圓の中、合に増改築する豫定です。又舊校舎の七教室を改造して公民館を設置することに、百五十萬の豫算で、縣原部落に水道を設けたり、七十萬圓で自動車ポンプを購入する事も決定して居ります。又湯本町の傾城から小野田へ縣道を開鑿する運びになつて居りますので、豫算

千六百十四萬三千七百四十圓の中、合に増改築する豫定です。又舊校舎の七教室を改造して公民館を設置することに、百五十萬の豫算で、縣原部落に水道を設けたり、七十萬圓で自動車ポンプを購入する事も決定して居ります。又湯本町の傾城から小野田へ縣道を開鑿する運びになつて居りますので、豫算

千六百十四萬三千七百四十圓の中、合に増改築する豫定です。又舊校舎の七教室を改造して公民館を設置することに、百五十萬の豫算で、縣原部落に水道を設けたり、七十萬圓で自動車ポンプを購入する事も決定して居ります。又湯本町の傾城から小野田へ縣道を開鑿する運びになつて居りますので、豫算

千六百十四萬三千七百四十圓の中、合に増改築する豫定です。又舊校舎の七教室を改造して公民館を設置することに、百五十萬の豫算で、縣原部落に水道を設けたり、七十萬圓で自動車ポンプを購入する事も決定して居ります。又湯本町の傾城から小野田へ縣道を開鑿する運びになつて居りますので、豫算



磐崎村探訪記

緑の郷土社

虎造の浪花節ではないが、一里離れりや旅の空、その旅へ出て御國自慢、村自慢のくさり位やらない人は恐ろしくないであらう。思郷の心と云ふか、愛郷心の發露と云ふか、兎に角郷土愛の表現であらう。自慢高慢の中で聞き辛いのが今流行のど自慢とこの御國自慢だけだ。

磐崎村の大田原村長さんなども町村長會の宴會の席上で隣席の同僚を指へては、從の村はななどや出ずりたり、無邪氣な好々爺だといひてもいいし、村は横濱村だとの評もあるの、一度探訪したい、この思ひが叶つて、菜坊書伯と同行湯本

林君と四分六分の歩分けをする事になつてゐます。私の村は、他の農村と違ふ所は常磐炭鑛磐崎と戸部鑛業の小野田鑛業があることだ、總人口の五割五分はこの兩炭鑛で持つて居る状態、鑛産税も二百六十萬許り入りますので、村でも同様の種であつた中學校は給費なしでせう、どこの町

村でも同様の種であつた中學校は給費なしでせう、どこの町

虎造の浪花節ではないが、一里離れりや旅の空、その旅へ出て御國自慢、村自慢のくさり位やらない人は恐ろしくないであらう。思郷の心と云ふか、愛郷心の發露と云ふか、兎に角郷土愛の表現であらう。自慢高慢の中で聞き辛いのが今流行のど自慢とこの御國自慢だけだ。

磐崎村の大田原村長さんなども町村長會の宴會の席上で隣席の同僚を指へては、從の村はななどや出ずりたり、無邪氣な好々爺だといひてもいいし、村は横濱村だとの評もあるの、一度探訪したい、この思ひが叶つて、菜坊書伯と同行湯本

林君と四分六分の歩分けをする事になつてゐます。私の村は、他の農村と違ふ所は常磐炭鑛磐崎と戸部鑛業の小野田鑛業があることだ、總人口の五割五分はこの兩炭鑛で持つて居る状態、鑛産税も二百六十萬許り入りますので、村でも同様の種であつた中學校は給費なしでせう、どこの町

村でも同様の種であつた中學校は給費なしでせう、どこの町

福島県の緑化運動も二月二十日縣會開會中に其の第一號を擧げ、國土綠化中興局委員長が招かれ、各縣會委員長も委員長に招かれ縣下方の運動の土を組織して、廣い意味の縣運動として綠化運動が行はれる事となり、これに呼應して各地方事務所、地方推進委員會等が結成され、形の上にては全く一見見る大穴ありの運動であるが、綠化に關心を持つ者として、誠に應答すべきことである。然し此の運動が置に綠化の實踐にまで見るべき成果を擧げるかどうかは今後に期待するところであらう。

此の秋當縣にはは戰爭以來荒廢せる山林の復興を目指し、造林五年計畫を樹立しこれに伴ふ豫算一千萬圓を計上し、ついで「實踐に入つたが矢張り、森林保護に於ては種々に移され進んで、森林愛護に關し縣民一人々々の綠化實踐まで發展するには何かの助けを必要とする。即ち縣民の協力、併行して民間運動の強力な裏付けがあつてこそ始めて山林復興が實現される。我々の金剛の緑の郷土が完成せられるものと思はれる。綠の郷土大の發展はその意味に於て最も大きな期待がかけられる、今後の

發展を斷つてやまなむ。この機會を逃つて於ける木縣の植林經過は過去に於けるに不思議にも植林熱は戦後の度毎に昂揚せられ戦戦する。即ち其の第一期は日清戦争の終了した明治三十年から三十二年であり、産業としての植林は大體この頃から始まつたと云ふことも過言ではない。丁度其の頃政府に於ても始めて森林法を制定し、林野に對する自由なる入が禁止せられ、山林緑化の第二段路を踏み出し、戦事終了後明治四十年から四十二年にかけて引續き全国的な大自然害を蒙り、戦争に勝つたのが日本國の威力は打ち勝てず、治山治水和重要國策となり、戦後復興植林熱が全國にたかまり本縣に於ても出てきた植林時代は役了つ、茲に大きな植林第二段路を畫つてゐる。今度の戦争で伐採せられた造林地の大部分は即ち日清日露戦後の復興植林が役了つたのは不思議でない。次に第三段階として今回戦後の最も大切な山林復興の段階となつた。然かも今回は従前と異り戦勝記念復興造林で、戦後の再起つてなかる大規模にして且斷斷的な植林を必要とす

かつたことは昭和十五年で其の實行面積が四千五百歩に行つてゐる(例年の一躍二倍)の造林が行はれてゐる。然かも面白き事には當時に十度紀元二千六百年には高麗にて樹木は降々たる最盛を誇つてゐた、悠久二千六百年前に明に行はれた年である。終村に明に行はれた年である。終久を記念として永く將來に思ふを託す植林並に植樹が記念行事として行はれた事、まことにむづかるかと日本人は永久に榮える信念と理想に燃へてゐたことを表徴するものである。

又丁度其の明治治世神武肇興全國津々浦々より數十萬本の國産木が行はれた青年團員の奉仕の下に神宮苑に植栽せられ一個下り今日ある神宮の大森林が代々木の原に圓現したのであるが此に國民の情熱が燃へて十九年二十年は植林の最も振はなかり百歩が天下を通じて僅かに四百歩が落ちてしまつてゐる。即ち戦前の年である。然かも皮肉にも當時の山林伐採面積は四万五千歩にはね上り、昭和十六年の倍量が伐採されてゐる年である。

今日山林の荒廢は實に此の前幾十年間の造林空白時代に觸れ

百町歩を賃に、移し今後五ヶ年間に五萬歩の造林を計畫してゐる次第である。即ち昭和元年より二、三年、二十ヶ年間かゝつて實行した、同分間實行し五萬町歩を今後五十年間に實行しようとする、大復興計畫である。ところが今の我々に課せられた山林復興計畫であり、且つ一大使命である。容易では無い、然し我々の將來の子孫の爲、患者、防衛爲爲るべきならぬ緑化の實踐であると思ふ。

更に山林の復興と併行して忘れてならないのは我々の日常周邊の緑化である。即ち職場として、停車場として、街路は元より神佛開闢、更には遠く祖先を懐けし奥れた貴り定された事を惜げもなく、花岡を踏みにたつた感がある。青森から下關、徳川國府の一大道路工事で、金銭で解決出来ない、三百年の星霜と人間の憂鬱が染みた風景、文化の一つであり、つて凡そ今日の人の計畫し得ない大事業である。福島縣勿来關渡から相馬の防備保安に至る海岸緑地に延々造林は全く先達の遺した偉大なる文

海道御海の、大穴で何より一宮の松が助つたこと聞いてうれしう、御海もロマンチックな旅の印象を興る唯一のものは、あの松の木である。それが焼けたら金銭はは復興しない。關の五木松に出た事がある。唐崎の松は既に枯れてしまつた播州の相生松が枯れては何としよう。戰前東京郊外第一の幽邃を誇つた丸尾園公邸の杉が伐採され、今杉の頭を遊ぶ魅力は全然なくなつて、かつてした戦争中夏井兵衛各の一部に禁林者が伐採、機嫌をかけたのが汽車を害はなと思ひやりの擇伐が實施せられて今日傷跡を残さないのである。これは年の悔ひを癒した。うしろし數で十年の行を何處の村、何處の町や市でも思ひ當る數々が植ゑられて思ふ。早く思ひ出して植ゑられて思ふものである。植樹親から子に、子から孫へ植へて行かばなればならぬ大切なバントである。緑化運動は助けを助ける感懷の役目を果たさねばならぬと考へられる。

(註) (筆者は縣林業(森林課長))

斧で一人の米人から次の様な質問を受けて困惑した事があつた。「農村にはこんな行つても、各家庭には神棚があつてお聲明があげられて、お祭りに村全体が社に集まつてお祭をする。先祖のまつりはよく守られてゐる美しい自然、村の古く、朝早く野良に出る途、道に出合ふ人々の盛んな挨拶、こんな人々の心はどんなに美しいでしよう。それなのに戦争中の惨虐行為で戦犯に問われた人々は農村出身の人々に多いのです。これはどういふわけでしょう。」

様な音も續いた。この時木立の
蔭から人の男がツツリと現
れて視聽がツツリ合つてし
まつた。彼の手におひ折つて
つまつた枝が纏りてゐた。見
てわいけのやうな顔を見た様な恥
しさと愉しさが、一緒にして今
までの美しい清草が、べんにつ
されてしまつた様気がした。
さあ歸らうと氣は休れたが、嘗
てしてその場所を離れる様にし
て立去つた。このときの圖々々
男の顔があつた戦
犯者の聯想と一
直線に結ばれて
ゐる気がした。

るた。私はリッピンランドから着
に恥かしてゐたといふ人がある
に日本軍の野營部隊だといふ
のだ。日本軍の通つた後は野營
が速に蝸が群がが、アメリカ
軍の後は蝸がなくなるといふ
ゝ、日本人は氣でやり放しの
野營をする。アメリカ人は必
穴を掘つて埋めて去る。これは
水いゝ國民の進取の氣である
う日本の母親が遠くを不氣で
ちやんの便をさせてゐる。その

の子供たちは葉をかり、枝を折つてしまつた。がつかりし私は「吉田さん、とても花など植えても子供に下されませんからカサチチを植へて下さいませぬか」とお願いした。緑化と子供は別立しないなら緑の子供には喜ひ出したくなる程の「子供には愛おしい立派な賞品を贈るべきだ」といふ實根氣く白髪をすする。外人根氣の口から

日本人は國をり
樂しむたかち亭
舞をめぐらして
中を國をして

たとい。その日本人は、この時
立派に社會の模範を守ることに努
少年に心中深く教えられ、頑然
て死すかしの想いがしたと述べて
してゐる。

日本の子供らにどんな立役があ
らうがドンドンよじ登つて、フ
ラッ!などの一喝などせよと答
つてボールを拾ふよと云ふだろ
う。公徳人に關してはたしかに日
人は野蠻人の列にあらぬ。徳化
動にわどうしてもこの邊の教
から引き抜かれてゆく學校で
○週間の間だけお座りにま

美しい自然に生れ乍ら、自然にかじみとアメリカのこの若者の言葉を感じた日本人は、自らもかじみとアメリカのことである。客の略はかき捨てといふ言葉は實に日本人の二つの缺陷をついた言葉である。一面を重んずるといふ日本人が人が、見てゐなければならぬ惡業もやりかねないといふ爲善者でもうかり。自分さうな利己的潔癖性。それが昔から清潔の民といわれた日本人なのであるうかり。鼻をかんだ紙をポツと捨てたり、痰を路頭に吐き散らすや何んない草む一朝一夕の悪習でない。或朝私わ一朝一夕連れて公園を散歩したり。寒々夏朝の空氣わすがすがしくを消めつてゐる。燃える様なつじが線の中に突き誇つてゐる子供たちは聲を揃えて「あいよ麗ね」と叫んだ。花は心を美くする。うつとりと花の間をまよふてゐると、パンキと音が生じた。衣を見えないが思

いた。花の美しさを愛する心、心に變りない心に變りない心。然し彼ら公國の花を折つてまで持ち歸ろうとする。何故人々と共に花をいたわり楽しむとしたものだろうか。公國の中の立礼の中に「草木を折るべからず」司命全部に上書したのが所々に見受た事がつちかひた。この爲な立礼の中に日本人八十八の僧侶が齋食を禁ぜられてゐるの、嫌惡の感情を覺えたのであるが、見てゐなければ「平氣外に公國を去る心は、一歩外に公國を去ると他民族の排斥を受ける」と國を愛する。團體意識と平等と國を愛するなど全く考えない異常國に現格者は、戰亂調な名文が現地に注意して。皇軍の總加既に地に落ちて無軌道を行つた。

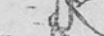
れからうの
 緑化運動



大河内

後始末をしてく母親わがやの
 こんな子供が大きくなって公公
 の花をよみての少しも不思議
 ない。外人の母親が人前でも乳
 を出して授乳しないたしな乳
 ちやてみた。私の家には庭
 稱するものがない。

どうも醫者の玄關しけくない
 いふので縁の郷土社の吉田さ
 が座な空地へわさし植木を
 つて来て植えて下さつた。竹
 切つて来て植えて下さつた。竹
 が七日も過ぎないうちに、近



に渡るべからず」と書いてあ

ターと綴方を書かせた位で出た教育でよい。デンマークのタルガスが「祖國」を念頭に金匱に立たせるとき、再建に會合へ行つてつたところの再建が第一であることを述べてゐた。第二に緑化運動は俯じてゐた。緑化運動者が植林すればすにでも緑化の目的達する様に考へればその考へ違ひ。緑化運動に倫理運動をわねばならないからである。教育者の猛省を促した。日本人の公徳心の缺陷が緑化の間題に止らない。國庫問題にもやうな聯をもつてゐるのである。私聯化運動が日本人の國民性向にも寄與することを信じてゐるのも吉田さんの仕事は尊いといつてゐる。

註
(筆者はいわき福音協會 理事長野博)



歸化運動

大河内一記

(筆者はいわき福音協會)



その頃の筆者

校長は「校長は十三日会受の愛知校で、
であつた。超絶集まつて来ぬの
の御表は、超絶集まつて来ぬの。赤
字証紙のため、吾らは個人會員
に、中學校、商業會堂、
等に、休會員として、月々會費
を納める様にしたのは、櫻井校
長努力の賜物であつた。文
博士の學位を取つた。よく勉
強された様だつた。酒は流び
程飲んだが、人情味、酒が人に
親しみ、松野屋繁雄君は少し
味来、味がたが當時アメリカ
に特色があつた。フネリカド
の商業合理化運動が輸入さ

で非常な面白かつた。大隈の喜ぶ商売の土壌には、諸大名が金儲けの道が上にはあると云ふ話も、今でも覚えてゐる。松野屋君が金を生やせやうと、松野屋君を以てせうであらう。その頃奥州、秦野を藩が毎月一日に當時の警備城銀行の松上、無門、津波の警備して居たが御殿が「津波」御殿、真ん中に因か鑑無きと聞かれたら、松野屋君に鑑無きと聞かれたと答へやうではなかつたかと相談したものであつた。兄さんの松野屋屋明明大佐が喜ばれて豫金の樹てゐた旋された時、第何年振りのかの對



孫文が捕はれて刑場に運ばれる途中、かこの中に讀書されて屋敷に相たが、松野尾君も孫文に似た所がある様に思ふ。

今では東京ゴムの重役として飛ぶ鳥も落す勢で、書物を讀み代りに酒を飲んでるのであるまいかと心配してる。

山科喜馬氏の名文は時々ラヂオで放送された事があつたが、同

觀光と
樹木について

伊藤忠男

荒涼たる土の國に國土緑化の觀光日本の建設が唱へられる様に至つたことは決して偶然ではないと思ひます。日本人は、風景の繪畫的な美を發見して、これを鑑賞することは、歴史的に、むしろ歐米人に劣り廣く、且深く大衆の間に發達してゐたけれども、風景の科學的研究はかなり遅れてゐたと思はれるのです。山根、原野、湖沼、溪流等（それ／＼に「つとて、それ／＼經濟生活の舞台である」と同時に、風景を構成する重要な要素でもあり得る）。從つて經濟と風景との二つの相容れない用途が同一の地上に相斲む結果となり、ここに問題が生ずるのであります。然し何れの場合に於ても樹林がその要件として、主要な役割を果してゐると思へば、この問題は、直接山林取換に對する問題として、解決が求められる事であると思ひます。私は治山、治水事業と同様に觀光事業も日本再建の一つの方法

は出來ません。我國ほど水害が多量であるものは殆どないのである。霧、霜、雪が去る來し生物の成育を助け光線を短けて風景の美を遠感なく發揮する。又多數の火山岩が、険しい山岳を生じ、流は浸蝕して、變化に富んだ風景を添へてゐます。實に我國は天恵の多い國で地上の裝飾をなし、その風景を觀で來るものは國土の五割以上は樹林が最たるものであり、また、サクラ、モミヂ、タケの國として世界に有名である所以でもあります。

浮木の美性としてわれ／＼の頭を打つものは、次の三種であると思ひます。

(一)空閑的な美（即ち、樹木の形及び色彩についてのみ）
(二)量的及び時間的な美（即ち風雨霜雪等の天候及び季節に依る變化的な美性）
(三)統一性的な美（即ち形態、色彩、運動に伴ふ統一的な美性）

今例へば草木の一つに見えますと

大
森
勇

氏は若き頃平に居た事があつた。何時か湯島の人山園地の梢切の處で出會ふに至りて、昨蘇我の宗教をされた。昨蘇我は愛の宗教であるといふ所に、意志の宗教であるといふと、兎れたが、如何云ふのも定かでない。山村民も今正五十六年、日本に於ける現代の宗教と思へば、日本に於ける今日に講演して居る。

湯島の傍の中腰穴をあけて、今迄に掘出した石炭は何千萬匁に達したであらう。この石炭で汽車走り工場は動きお風呂は沸き、ストーブがあつて計り知れずの受けた恩恵は實に計り知れない。濱崎君はこの石炭會社に三十九年か働いてゐた人だ。私は濱崎君に會ふ度に、石炭を通し間接的に恩恵を感じる。濱崎君は常々岩崎文化史を書かれて居る。

計書を持つて居る相だが、**浜崎氏**が貴族に思ふ。岩崎文化は日本文化の一部分である事を忘れてはならぬ。飯場、鐵夫長屋、還來カランダール、町、院坑、鹽場、ボンドン、坑内火車、瓦斯爆発、ストライキ、炭鑛師、黒鉛入り入りの濃色取り／＼の動物語等々、日本歴史は之等の特殊文化を見送つてはならぬ。濱崎君は若い頃は非常に博識であつて、停車場で會つても何でも書物をも常に書物を手に入れた。



大正八年四月法律により見た内
内縁の妻と云ふ題で清濁されて
居る。

大正八年六月は、古賀榮次郎
古賀賢吉は兄弟が、加賀親光を誘
濁されて居る。古賀賢吉は今好
好の堅決を設けず、爲めに強
利加に洋行したのである。古賀
賢吉は、大男子で、足尾銅山に居
た酒漬を許して、大の兄に逢つて
半端な許して、大の兄に逢つて
好間に廻されたのだと云ふ噂があ
つた。若し何處へは故に妻に行
つても、足尾銅山は故に變へる
人ではないが、古賀賢吉に對し
人は如何の方だか、思つた。

栗山泰吉、老翁、鳴鶴の傳言があ
つたので、麓に、水櫃の木しや
うばう寺を經て、檜の山しや
澤の木寺に源に居られた。鶴
見の總持寺は、栗山の建立にな
つてゐる。若き栗山の傳言に
服で鶴見に來、入んで土地を相
牧してお寺を建てられたのだと
が栗山師、建てられたお寺は
關東大震の時とも倒れたなか
つたが、栗山のつもとに建てた
お寺は、今も倒壊した相だ。手を
抜いたのだと、この事を見、栗山
は余程得たのだと云へて、何處
にも聞かれない。栗山の師
の眞面目さ、文化化しない性格が
しのばれて、鶴見。新井井師師
の先づから来たが仲が悪い。新井
師が今に來たのだと、長壽寺は
土産物屋、けられた。栗山師は
新井から土産物を貰ふ可き訪
合、なから貰ふわけにも行か
ず、この事になると返せば禮儀
に欠ける事になるから、その諸
年でも預つて置くのだと、諸



者て居た。また總持寺から功
 勞として年金を贈つて來られ
 栗山師の考では、年金制度を始
 めれば將來栗山の財政が改善す
 るのは見えて居るが、行き詰
 れば
 栗山は
 本山の
 好山に
 反意に
 事にく
 なるに
 ので三
 年

の處に預つて置いて返済した相
 間。師學に習合を聞き度いとお
 願した。栗山に御承諾されたた
 り、毎月一回十日の夜常時の磐
 城院行儀上にて無間講を講義し
 て貴方事に行き、始めの程は聽
 講者は堂に溢れたが、並つて重
 なる毎に二人減り五人減つて遂に
 は講學者座かに四、五人位にな
 つてしまつた。老師は鶴見水澤
 と常に多忙であつたが十日には
 必ず平に歸つて講義して下さつ
 つた。ある時三十九度の高熱があ
 つたが、今夜は休講して下さ
 いと御願した。師はさへ入れず、何
 時もの如く體に立たされず、た
 だから有難かつた。平を去られた
 後、曾瀬家の管長になられた
 十三日會では、大正十年二月、
 佛教より見たる時間と空閑と云
 ふ類で講演された。時も竹なかり
 虎も竹なかり有名となつて面白
 かつた。老師は有名な書家で私も
 幅持つて居る。
 百花春到爲誰開。

墓場に行く途にこの意味を解釋
 度いものだと念願してゐた。
 註(筆者は大藏寺副院長長)

で重要なところであると思ひます
風景に、生命を與ふるものは生
物であるが、その中で効果の最も
大きなものは即ち樹林であると思
ひます。この二つについて
はグランドン氏は次の様に述べ
て居ります。即ち風景といふもの
は、地理的、藝術的の概念な
であつて、これを構成するといふ
ことは、取りも直さず風景の美
の美、即ち自然的、美術的の美的
維持であるが、また、天然並びに
藝術の意味に於ける土地の美を
を含まなければならない。と喝
え、風景を要素を分析して、
次の三つとして居る。
(一)土地及び土、土地とその衣
裳、即ち植物、動物、樹木全
體を含む
(二)水(その一部は地表にあり、
一部は、空氣及び光線と共に
空中に浮遊する)
(三)空氣及び光線。これは凡ゆる
事物を運動する。
わが國は、國取れてもなほ山河
は存在し、風景の美しさは廣く
世界人々の認むるところであ
りますがその美しい理由は
(一)氣候、海流の多變多様なこと
(二)水養の多量なこと
(三)火山岩の種類の多いこと
河流水の浸透強烈なこと
等が挙げられる。氣候、海流
の多様性は生物の無盡蔵を意味
し、マツ、スギ、の松、サクラ
の渾紅、カエデの緋の鮮麗なこと
は國の内外面を問わず愛されて
來ましたが、落葉松の綠うす
むける景色は何時も忘れること

(一) については實に目覺しければともいふは極めて微々たるもので、
 曰に至つては全然これを決きま
 すがそれにしては樹木の美性は
 (二)の特色色彩の鮮美といふ点に
 於ては著しく劣つて居りますが
 (三)を見ると最もその特色を發
 揮してゐるのを見ることが出来
 ます。

以上で樹木が如何なる視覚的價
 値を有するかはわかると思ひま
 す。山林は我々人生に對しては
 用材、薪炭材、特殊生産物、副
 産物等の直接の有形的な役割の
 外即ち樹はそこに存在するとい
 うことそれ自體が我等生活に種
 々の良い影響をもたらすのであ
 ります。それは

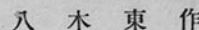
(一) 國土保安的役割
 例へば、山林は、氣候や風に
 對する防護的作用を果したり、
 水分の經濟、洪水の防止、崩
 壊及びびなだの防止、砂丘の
 形成等その役割は大きいので
 あります。

(二) 國民教化的な役割
 例へば山林文化の問題、山林
 美のあること、國民の保健増
 進等の役割であります。

この様に森林は有形的、無形の恩
 恵を我々に與へてゐるが後者の
 関却されがちな無形的な役割の
 如何に大であるかを認識し平和
 のシンボルである緑の山林を愛
 して育てるを活用することによ
 つて、山林國日本の新しい文化
 が築き上げられることと思
 ひます。

註(一)者は藝林業識技師)

計(筆者は藝林深譚技師)



来る人々の中にも、一氣に降りて来る者があつて、唯でよへ橋の上にあふれた人の波を押しよけるので、うしろとよする人の群と降りて来る人の群とが撞くの上で揉み合ひ、女が群は子供が泣く上で大騒ぎを演ずる。これが文化國家建設に、誠に救はれる。といふ。

さて汽車に乗り込むと、この頃では一人分の席ぐらゐり直ぐに見つかふのである、なるべく窓に近い席を選んで腰を掛け、カバンから本を出して讀み始める。さうすると、また横目に着くまで本から多量に讀む。ときもあるが、多くの場合、時々、物思ひに耽つたやうな眼をしてつゝ窓の外に向つたやうにしている。――さういふこれらが大切なところだ。

窓の外に廣々とした田畑や緑の小山などがある時は、また宜しいが、いづれとも都合よくはない。行かぬ。線路に沿つた家の座

せめて、こういう家には、かくしになる垣が欲しい。それも竹垣や板壁ではなく、鐵道を沿線の風致をそえるような樹を植えたらどうだろう。

汽車の窓から見える家々にも垣があるけれど見るものも少ない。だが、多くは沿線に美しくそえるなどということを念頭に置いてないようである。

戦前、東京では郊外電車に乗つた小緑の丘のほとりや垣根一面に小さい白バラの花を咲かせた家があつたが、その美しさはいまだに眼の前に浮んで忘れる事ができない。

自分を見つめ持つたらう垣根をつくりたいものだと思つたのである。

また、昨年ある所でカエデを垣に植えた家を見た。秋のことでカエデが紅く色づいた風景は實にみごとなものだつた。

バラには常緑の種類もあるから、花が美しくて高くのびるも

てくたへらば、それは私
がたのしの、窓の外
でつた汽車旅行にすぎない
と、持て和らげるにすぎない
と、多く、日本には外國の觀
念が、今、迎へられることな
るが、道に沿つた家々の、こ
うした配座は、文化國日本の
誇のためにはある必要になつ
てゐる。――
――、本當にそうした配
座が生れるようにならば、
平靜で、毎朝のあの見ぐら
しい晝寝もなくなるであら
うし、同時に日本が文化國
家の名に恥ぢなくてもよい
ようになるのである。
――
日本で上代には、住宅
の多くが櫓柱に圍まれてい
たものであつて、それが武上
皇に孝安三年三月に發せら
れた勅で、續日本紀卷三に

これは今から千二百四十四年も前の話だ。次いで平城天皇の（西暦八〇六年）に同じく六月、又うな動が出てゐた。大昔の事はさておき、江戸時代に、も家の周囲に樹を植ゑることが、感動された事實は、史上に明かされてゐる。

三あ、もう時間だ。國土の

——さあ、もう時間だ。国土の

社長 正木昌次郎

平市願宜町 電一〇一〇番

新田目五郎



した事で、今でこそ、ベニシリ
 ンと云へば、どなたもよく御存
 知の肺炎の特効薬、昔は絶対助
 得る薬、しかも十分な量を我

事是我
 のベニシリ
 ン研究に關

國內で作つて居る、有るのがあ
たりまへの様なくすり、それが
あの頃は全く無かつた。あつて
も極く弱いものを、研究所など
に特別に手づるが無ければ入手
出来なかつた。筆者は、その頃
扁桃腺を腫らして、特別に懇願
して一本頂いたのを注射したら

中の果物をとり、房に、果の房を消化して既に獨自のものを作り出して居ることは私も又保證して差支えないことと思ふ。しかし當時、戦争も漸く末期の症状を現はし始めた頃は、とてもそんなものではなく、筆者の關知する範圍のベニシリン研究の状況は、資料、文獻の不足のため

を受けた。その頃、新薬の
全能力を傾けてこの新しい所
謂、抗菌物質の研究に當つて居
り、約一年の努力の結果、基礎
と、臨牀の成果を擧げて昭和十
九年の今頃、國內の視聽を集め
て第一回の發表會を開く迄にな
つた。しかしこの盛な報告會の
後私は研究員の人から極めて

「よ」醫學部門の外の方の言葉であるといふ。
「V四號といふのはどんな兵器でせうか」
之に對して、その研究員は怪げんな面持で答へたといふ。
「知りませんね」
するとその方は重ねて

たしました。歸社いたしましたして
からしみ／＼と考へさせられる
ことばかりで、民主政治下の行
政はおくあらねばならぬと身を
以つてお教へしていただいたこ
とに氣が付き頭の下る思ひで御
座いました。

色々と教へられました御話の中
でとりわけ心にどめた御話へ



大田 先生

林業課長さんを

縣廳に訪ねて

松崎愛子

「今迄の林組組合は戦争中は資材の急激な需用の爲に戦後後は國內復興等で可及的に森林の伐採に重点を置いて来た事は已に得ない事でもあつたと思ひますが、この頃から組合は設立の本然の姿に反つて本を傾け且つ伐採の指導役となり置き度いふ民間の根強い運動が、どれ程親

註（筆者は本社同人）

性肺炎よりチャイルドは再び起
り得なかつたかも知れない。
それは第二次世界大戦にどの様
な大きな影響を與へたであらう
か。

思へば、ペニシリンの発見者、
フレミングの功績は實に偉大で
ある。

註（筆者は醫博
平市第四日精神科醫院長）

平市新田目精神科醫院長)



緑の郷土社

磐崎村を訪れた際、庶務主任がさも残念さうに、當村には神経痛によく効く名湯があるんだがどうしたわけか石城地方には余り知られないで、浴客は主に東京、茨城方面から多く、地元の方は極く稀で折角の名湯が地土に親しまれて居ない事はどう考へても残念だと洩してゐた。名湯白鳥温泉は筆者の知人などは、神経痛には療養よりもこゝに限るとばかり春秋の二回は十日許りをこゝで静養して歸ることを年中行事の一つとしてゐる。その事は一にしてゐるが湯治や行樂には餘の遠い僕等は且て入湯の機会はなかつたが、こんな度こそ視察がてら入湯もし聞く如き効めのある名湯なら縣



下で紹介し度いと、副社長、廣澤重伯と一行三人、白鳥の温泉を訪れた。湯場の前には、それぞれ案内所があり、そこから電話すれば二十五分でオート三輪が迎ひに來て四軒の道の湯場の軒下まで運んで呉れる。而もこの送迎は湯場のサービスである。湯本から垣々たる國道を南に二軒右折して村道に入るが極端に村道に何等國道と變りなく手人が行き届いてゐる。行くこと一軒あまり、竜勝寺と云ふお寺の前から山道に入るが、こゝも車で乗り切つて行ける様開闢してある。里近くでありながら高山の麓へ入つた様な静寂さ、谷川の瀬せらしき山里らしく、早春によく、青葉によく、紅葉の頃にも想ひの霞かさは多も浅き易いだらう事を察せられる。湯場は、喜樂屋、春木屋、吉田屋の三軒、い



白鳥温泉 喜樂屋主人

【元湯喜樂屋】 精しくいへば福島縣石城郡磐崎村大字白鳥字勝丘一八九番地であるが、當主は高橋國太郎さん、今から約七十年前に、祖父の庄吉さんが發見し、祖母のイツさんが十九才の時小屋掛けで湯屋を開業したのが源流なさうで、今でも母屋は茅葺、明治初年頃の名残を止めてゐる。空閑高出身の長男庄太郎さんは未だ白面の美青年だが、こんな事を語つてゐた。どんなに建築様式が變つてもこの母屋だけはこの儘保存して行き度い。明治の香りをとどめるばかりでなく、祖母の草分け時代が忍ばれると遠慮、三年前に没くられたお祖母さんを懐かしむて居られた様だ。

六棟二十二室の客室を設備してあるが、設備や宣傳よりは親切第一を経営のモットーとして行き度いと語つて居たが、三輪オートを購入してお客様の送迎に意を用ひ、屋根のベンキを周囲の山とマッチする様色彩を濃く塗り、娛樂室を設けてピアノ台を作つたりブランコの設備などに氣を配るあたり、教養ある新人であることも現はれては、笑ましかつた。

どの湯も略同じ成分だといはれてゐるので同家の分析書を寫してゐる間、書伯は全影や御主人の似顔をスケッチしてゐた。

明治卅六年十一月三日願泉分析ノ件開別紙検査書ヲ下付ス
明治卅四年一月十八日
福島縣知事 有田 義資
石城郡磐崎村大字白鳥字勝丘十九番地
高橋 庄吉
喜樂屋主

【春木屋】



喜樂屋の直ぐ前が春木屋で、勝丘の百十八番地に近代式の建物で七棟客室が二十五室あるといふ。明治四十一年祖父さんの織内喜平さんが開業されたとか現在孫の信一さんが跡をつがれて營業をしてゐる、平商業出の温厚で純朴な主人、出来るだけ勉強して幾分でも多くの人の役に立ちたいのが望みだといふ。先代は既になく、未亡人のお母さんが女丈夫でよく家運の隆昌に勉められた由。主人の似顔を

酸少、尿酸化鐵、石灰小、苦土小、礬土少、加里微、邦節、倫著明、ラヂウム著明、蒸發、殘渣一リットルに付〇、二五八五グラム、右之性狀放散線なるを以て本泉、弱酸性硫酸泉なりとす其の泉等應用すべき諸病は概左の如し、慢性尿酸質、及筋直慢性痛、白、各種神經病の療養泉に因る者



(春木屋全景)



整形外科

大河内醫院

平市才樋小路 電588

内科・小兒科
放射線科

後藤醫院

平市古浪治町 電1.036

荒井敬助



商品價值は白根が、尺以上あるものがよい。白根が少いといふ多くなると、白根が永年平つて退化して居るから養に母木を選択することにして、特別に採種園から採種することが大切だ、干ば系の外に石倉葱もよいので、目下當分の研究中である。

次は大根であるが三四月頃出た、五月、四、五月頃二年子大根五、六月頃頭種、六、七、八月頃美濃早生種、一〇、一、二月頃秋早生、秋づまり大根、十二月に入つて練馬と東叡院大根等が出荷される。東京近郊の練馬大根は、モヤク病の爲めに東京都では大根二〇萬株も穂絶といつて消費するに倒底生産が之に洋はないで、今後石城地方からの練馬大根の出荷も有望である。

無時大根は早く蒔く程有袋で、品種は京都で出来る花不知無時大根がよく、美濃早生大根は五、六日位で出荷出来、無時大



兎が大抵は犬様中へ一歩動かすやう
 けが障礙に出して持ち替へる。こ
 千葉縣から出る練馬號轉じて十
 番より、八月中旬に歸つて十二
 二月初のに一貫匁以上になる。
 八、九、一〇月
 に群馬、長野
 縣の高倉地村
 月三〇日車位
 に入り六次で
 九、一〇月仙台白菜が從來より六
 車位盛んに出たが昨年は僅に五
 〇車位で出たが、それは東江
 府近の甘藷が早大根が出来たし
 秋田の甘藷が早生、それとレシ
 ン草等も出荷されたので少かつ
 た。十二月に入り中東の近在
 物が出る。十二月中旬になると
 埼玉の越谷西新井方面で盛ん
 に作つて居る花心白菜が出来
 返園藝には向かぬ。十月下旬
 に出荷するには八月十五日頃か
 ら「早生種」としては野崎二號が
 あるが軟か過ぎて「荷傷み」が多
 くなる。それで「松島新
 二號」との一代雜種を作り一株
 七百匁程度のものがよい。



白米を作ればは幅作關係もその跡に
 の中に入大豆の大井上五〇號の
 様な極早生品種と云ふものと
 上旬に收穫出来るもの、その跡に
 共に居り量實現されて居る。
 其て今後は一番よいと益々有聲
 極早生品種は一と云ふ品種で十
 月中旬種取り反二〇〇貫位は土
 早いのは石川反中生で是は土垂
 種で十月早生は九月中旬堀土垂
 種は十月中旬堀で東京ではこの土
 垂種を喜ぶが、尻が潤かないから
 白く上に欠ける、尻が潤ないから
 他も遅く五月迄貯蔵が出来来る。
 穀の種類では貯蔵したものは水
 分が多くなつて味が下る。以上は
 が白草種であるが赤草種は貯蔵
 がきかないが親も子も食ふに過
 柿木縣等では五千町歩以上も栽培
 して居るが何れも反收三〇〇貫
 程度しかないのである。この反收
 い度しな水分を好む里芋に火炙

次に里芋で
 東北に於ける
 出荷限界は福
 島縣だと云は



次は西郷であ
 佐西瓜が四月か
 ら六月中旬頃に
 東京に入る。そ
 のあとに宮崎、
 熊本物が出て、
 熊木物がその
 後七、八月頃東
 京に運来する。新
 作、八、九月頃
 東京近郊の西瓜
 は直輸物は極く
 少く大抵接木ものが多い。
 無糖西瓜は出来て居るが今後益々
 々普及優良の要がある。現在の
 ところ研究量は新ヤマトと第一
 號であるが之を交配すると豊産
 で實もよくなる。但し採種の母
 木選擇のよくなる。新ヤマトはつぎ
 りしたものとからとることが肝要
 である。

昨年の價格は最初土佐瓜買千圓
 であつたが最後まで西瓜は買一
 〇〇圓以上した。土佐では反當
 あつたやうに上げた農家が澤山
 石城地方なども作前小清水の方
 面では相當盛んで、も從前小清水
 の今後はこの氣候土質の優位点か
 ら見て大いに栽培すべきであら



起風は由來多し心しない方が好つてよい。然るものが出るなり。特に早秋の時の摘心は仰られなく秋草だ一敷に品種には地域性が強い。更に胡風越風は高い性質の外の石城地方で將來有望なものを生産とて本縣内から北に出すには願ては望である。生産は坪三貫以上はされる。那反貫はとれ之を貯蔵し種生産として昨年千貫千三百圓から千五百圓千貫千三百圓は反百三十圓から百五十萬位なりといふけれども既に有利な作物である。本郡では順々十有年前から勿来町の渡邊氏等は實行して日利を得て居る。昨年から本郡及芳賀氏の等も始めて起る。本縣及び地方の間に生産種子は從來未知、靜岡、神奈川、茨城地方に入つて居たものであるが今後せめて本縣で使ふ分位は本郡で出したものである。

註（筆者は關國藤原種俊後長）

(2)

遠

四、培養土
 何んと言つても花卉栽培で基本
 をなすものは土であります。即
 ち各花卉の成育に適當した様に
 合理的に土を調査して、特に事
 大切な事であります。置くには
 植の場合等は尙更ら大切なこと
 であります。各花卉の成育に適
 したやうに合理的に作つた土を
 培養土と申
 します。培
 養土は前年
 草土は刈草
 (又は刈草
 土)刈碎等
 を適當に配
 合してこれ
 らに人糞の
 を加へ、用
 來得れば雨
 水に浸か
 ない様に所
 々に堆積し
 て時々更に
 使用前に糞
 土等を撒布
 するやうに
 致します。使用の際には細目の篩
 にかけてから用ひ、の篩上に殘
 留した泥い土粒は鉢底等に敷い
 て排水を便にする爲に利用しま
 す。この培養調製に際しましては
 出来ることなら原肥として油粕
 過磷酸石灰等を適宜混ぜ合せる
 ようになります。

五、花卉の繁殖
 花卉類の繁殖には播種(種子)、
 挿木、株分蘖(トドリキ)接木
 等の方法によります。

種子によつて繁殖する方法を有
 性繁殖と云われ、挿木、その他
 の方法によつて無性繁殖と云
 申します。概して、二年草は
 有性繁殖によるが多年草及び花
 木類は一般に無性繁殖によりま
 す。然し新しい品種を作り出す
 土中よく飛び出せるやうなこ
 ともよく保溫の効果もあること

播種するときは苗床を充分耕起し土壌を影散にして土を良く碎いて常に空氣の流通を導る様に努むべきである。

尙ほ播種には床播と鉢播とがあり、床播、移植の出来る花卉は一般に苗床に播種致する花弁は發芽後目的の所に移植を行ひ、四尺又は三尺は充分耕起して中上に表面をなまし、その場合苗床の高さは僅かに地面より高き程度、高過ぎますと乾燥の恐れがあります。又床播の場合底成の意味でフレム内内に植體成を踏込して上の土層を入れ、播種すれば苗の成長も早く開花を促進させることも出来る。特に寒地に於ては、有差な方法と細い小な種子は、鉢播、極めて細い小な種子は貴重な種子等を播種する場合には、一般に鉢播が有効であります。この場合用する鉢は平鉢を用ひることも良い木箱等を利用することも良いと思ひます。鉢の底には鉢又は瓦の破片等を入れて排水を良くし八分一位位まで土を入れ、後は鉢をせずに軽く錐錐して鉢に灌水を入れて鉢のまゝ底を水中に入れて水を吸ひ上げさせるやうに致します。この方法は種子に飛び出すのを防ぐことが出来ます。

床播、鉢播何れにしても發芽を取り退きながら直ちに根を、露等苗の日光に當てゝ強健なところの苗を生立てることに要します。若し餘くこのと趣ればますます伸び過ぎまして貧弱な苗となる恐れがあります。又、鉢播きの場合は發芽後余り強烈な日光に直ちにあつてそこは避けるべきでなければなりません。

に播種の方法ですが、播種の法には撒播、條播、点播の三法があります。

撒播、苜蓿上一面に種種する的方法で小粒な種子の場合に行はれる。

條播、一定の間隔に淺い溝をついて南北に條播する方法です。溝は南北に設けずやうにするが、一定の間隔に溝を設けて溝の中に又一定の間隔を以て種種する方法で一般に大粒の種子の場合に行はれる方法であります。

(二) 挿木

挿木とは植物の枝、其の他の部分を親木より切り取つて土中に植へるときにその種類であります。木の時期は其の種類によつて極く上から下へ上げられませんが、春であれば露地では掘出し、夏秋であれば、又温室であれば、常緑樹は多くは梅雨のはじめ、落葉樹は多くは梅雨の出頭が良い。挿木は種子の出す

難い花卉又は播種に依つては、その變化し易いもの、多年生草で溫室栽培をなすカーネーション、ペラ等のやうなものにも、

挿木を行ふ場所により、挿木、鉢挿、挿木等に區別致します、挿木、挿木では春から秋にかけて行はれます、挿木に用ひる枝は数寸又は一尺位に切り、挿木は温潤な所を、又乾燥に過ぎない温潤に過ぎずと挿枝の地中部分を摘除せず、乾燥に過ぎずと須根をさまたげるものであります、

床挿、床挿には苗床を設け、それに挿木を行ふ方法であります、溫室内で行ふカーネーション等の挿木はこの方法で行はれます、

又床の代りに木箱を用ふる事もあります、床挿の用土は一般に用砂を使用します、

鉢挿、床挿より一層丁寧に、行ふ場合に利用する方法であります、一般に淺い木箱を利用するものであります、時として淺い木箱を使用することもあります、

用土としては床挿の場合と同様用砂を用ひます、

(註：筆者は縣同藝原種農事技師)

季節の料理

佐々木貞子

すがくしい初夏に簡単に出来る... 材料及分量... 方法...



でも、又さしみの様に切つてもよいです... 材料及分量... 方法...



寒天... 材料及分量... 方法... 五、ドーナツ...

Advertisement for D.D.T. disinfectant, featuring the brand name and contact information for Ryoichi Chemical Industry Co., Ltd.

花と生活

荒川ハル

(一) 未生新流生花の手ほどき... 花を生ける器具、花器、この他に必要なる道具はありますが...



は体の三分の一の處に行く様に... 例、梅は梅らしく、屈曲の線の鋭さを見せ、桃は桃の若木を、なだらかなその線を...

Advertisement for 'Shou' (寿) brand products, including a large character '寿' and text about health and longevity.

増刊の言葉吉田 満

除々に伸びるなら戸迷ひもしなかつたでせうが、平市の片隅で出して居た小さな雑誌が、縣下の皆様に御送りするとなると、あれでもいけない、これでも不可と、氣を揉むで反つていゝ雑誌を作れなかつたこの結果が、私は素直に認めて居ります。が、然しこの不味い作品を敢て皆様に御愛顧をお願いするに至り、した経緯を申し上げて、御諒解と察しといたふ様な情状もない譯

シベリヤの夜は早い、もう窓の外はすっかり夜のとなりは降りて暗子は美しい白花をばい咲かしてゐる。子供好きのY君はタリヤ、ルーシエンコの姉弟と先刻から何やら戯れてゐる、私は郷愁にとらわれて北緯であのドサクサで振り切るやうに別れた妻の事、郷里に今此處で儲かるとも知らず安否を氣づかう年老いた母の事などを考へてゐた「ボテエム デビア ニガワリ」(何故お前さんは歐つてゐる)「ナウエルナ ドーマ ユ デビア マダム」(多分奥さんの事を考へてゐるんだね)と微笑みながら話しかける。私は無言のまゝ笑ひながら居ると「故郷は」「奥さんは美しいか」「子供は」など次ぎ／＼に話しかける。私も子供が一人



ノ連卓描

廣澤榮太郎

來だ小さいし、妻と子に北緯で別れたので生死が分らない、東京の家は廣い大きい等と答へてやる。其の内に隣の家から肥つちよの老母ときいにはげ上つた赤鼻の爺さんが我々の居るのを知つて珍しいのか入つて來た

何時の間にかY君も傍に来て居た日本の「マツチデ」をして上げませう、とY君は老母のビヤ樽のやうによく肥えた身体をきやうに按摩さんをやつてやると老母は眼を細くして喜んでゐる。

「タリヤ」「ルーシエンコ」の二人はもう其間の遊びで疲れてベツトに入つた。老母は按摩が終ると肩のこりがすつかり降りてせいせいしたとすつかりY君を氣に入つて何度か體を言つて隣に行つたと思ふと音響器をもつて來て先刻の御禮だと言かせてくれた。

「レコード」が廻り出して音響器が聞えると言つた内地の童謡「メンコイ小馬」だすつかり嬉しくなつた我々はまるで食ふやうに聞き耳を立てる。そうたもう何年あれから二年もう遠い昔のやうに思へて仕方がない。聞いてゐる内にだんだん二人とも涙が流れるのをどうすることも出来なかつた。

「タリヤ」「ルーシエンコ」の二人はもう其間の遊びで疲れてベツトに入つた。老母は按摩が終ると肩のこりがすつかり降りてせいせいしたとすつかりY君を氣に入つて何度か體を言つて隣に行つたと思ふと音響器をもつて來て先刻の御禮だと言かせてくれた。

「レコード」が廻り出して音響器が聞えると言つた内地の童謡「メンコイ小馬」だすつかり嬉しくなつた我々はまるで食ふやうに聞き耳を立てる。そうたもう何年あれから二年もう遠い昔のやうに思へて仕方がない。聞いてゐる内にだんだん二人とも涙が流れるのをどうすることも出来なかつた。

の郷土は後の編寫として所載してはどうか、と叱咤激勵され、今同滑越にも縣林業部に支部を置き、縣下各町村へお送りすることにしました。

立派な原稿を寄せられましたので、編輯に當つては同人の佐藤氏が出来た氣を配り、柔かい感を出さうと廣澤君が又懸命に筆を振りました。貧しい同人達の世に送つた小誌としては経済的な面を度外視した根柢が皆いふ譯ではありませんがこの雑誌が皆さんから可愛がられれば、縣内の樹木も殖えこすれれば、縣内を信じてゐる縣民の心も人達です。そこで此處はこうしたいらうかと、こゝは、あつてはなかつたかと御注意を寄せられて、皆様を一体となつて育てて行きたいと思つて居ます。この意味で原稿等も地方から御投稿下さる様この欄で御願ひいたします。

編輯を終へて

福島縣郡城郡赤井村

龍王炭礦

船生巻太郎



磐城通運

平市駅前通り

久の浜炭礦

双葉郡久の浜町

酒井清



皆様の信用の
大黒屋
衣料百貨

一般外科

内木医院

堀江工業株式會社



外科・産婦人科

柏尾医院

昭和二十五年七月二十五日印刷
昭和二十五年七月二十五日發行

縁の郷土



平市 釜屋
TEL 9.99.999



赤ちゃんの
夏熱防止
関内薬店へ!
平・四 電話中〇番

(定價四十圓)



ひょうたん印



福島縣石城郡赤井村
小川郷驛前

岡本下弘(株)福島工場

發行人所
吉縁の
田郷土
藩社